

2024 年 12 月 20 日
東海旅客鉄道労働組合政策部発行



JAPAN-RAILWAY-TOKAI-WORKERS-UNION



第7回 政策シンポジウムを開催！

～人事・賃金制度に関して考察を深めるとともに、労働組合の価値を共有～

2024 年 12 月 12 日、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（豊橋市）において、各級機関の組合員、組合役員約 300 名が参集し、J R 連合、J R 九州労組、J R 東海会社から来賓を招聘のうえ、第 7 回政策シンポジウムを開催しました。

本政策シンポジウムは、テーマを「ハートフルカンパニーの実現に向けた提言力強化と労働組合のなすべき役割」とし、人事・賃金制度に焦点を当てつつ、提言力強化及び労働運動のあり方に射程を広げ、3 部構成にて、過去の経緯・現状・課題・今後の方向性などについて共有することに主眼を置きました。

第 1 部では、中央本部から「意欲とやりがいを持てる人事処遇・賃金制度の充実」を中心に「ハートフルカンパニービジョン ⇒ 2027」の進捗状況を共有しました。

第 2 部では、独立行政法人労働政策研究・研修機構（JILPT）の前浦穂高副主任研究員から、「J R 東海の人事・賃金制度の現在地に関する考察」と題した基調講演を賜りました。そもそもの人事・賃金制度の成り立ち、世の中の動向を踏まえた上で、今般見直しを図った当社の制度の特徴やメリット、今後深めるべき論点などについて、示唆に富む助言をいただきました。



第 3 部では、1 部・2 部を踏まえ、より具体的に思考を深めるべくパネルディスカッションを実施しました。コーディネーターは實地中央執行委員が務め、パネリストとして、前浦氏、J R 九州労組の大久保浩書記長、西澤弘晃（新幹線地本・施設部分会）さん、出口穂奈美（名古屋地本・運輸営業部分会）さん、佐藤勇介（東京総支部・人事部分会）さんに登壇いただきました。各々の立場とこれまでの経歴に即した所感や組合員からの意見・声を共有しつつ、人事・賃金制度の相互理解を深めるとともに、既に起きている変化と、今後起こり得る変化に対して、労働組合としてどのように向き合っていくのか、行動していくのか、ということも含めて議論・考察しました。



引き続き、ユニオン組合員・役員が一丸となり、広く世間の状況も主体的に把握・共有しながら、提言型運動の強化を図ってまいりましょう。